

令和2（2020）年度普通会計決算（見込）について〔概況〕

1 決算規模

歳入歳出ともに2年連続で前年度決算額を上回り、新型コロナウイルス感染症対策の実施等により、過去最大の規模となった。

・歳入	988,790百万円	対前年度	+229,361百万円	比	+30.2%
・歳出	964,703百万円	対前年度	+221,678百万円	比	+29.8%
*歳出のうち新型コロナウイルス感染症対策関連経費 172,419百万円					

2 決算収支

実質収支は2年連続で前年度を上回り、過去最大となった。

・実質収支	15,563百万円	（前年度	8,083百万円）
・単年度収支	7,480百万円	（前年度	3,423百万円）

3 特徴

- ① 県税収入は3年連続で減
県債は令和元年東日本台風に伴う災害復旧事業債の増等により発行額が増加

自主財源の大宗を占める県税収入は、税率引上げにより地方消費税が増加した一方で、新型コロナウイルス感染拡大に伴う企業業績の低迷による法人二税の減などにより、前年度比▲0.9%、▲2,098百万円と3年連続で減少した。

地方譲与税は、特別法人事業譲与税の減などにより、前年度比▲3,185百万円と減少したものの、地方交付税は、普通交付税の増などにより、前年度比+4,205百万円と増加した。

県債は、令和元年東日本台風に伴う災害復旧事業債の増などにより、前年度比+7,200百万円と発行額が増加した。

- ② 医療福祉関係経費は引き続き増加
投資的経費は普通建設事業費が5年連続で増加するとともに、災害復旧事業費も大幅に増加
また、新型コロナウイルス感染症対策の実施により補助費等や貸付金が増加

医療福祉関係経費は、幼児教育の無償化や高齢化の進行等により増加した。

投資的経費は、令和元年東日本台風への対応に伴い、普通建設事業費が前年度比+6.3%と5年連続で増加するとともに、災害復旧事業費も大幅に増加した。

新型コロナウイルス感染症対策の実施に伴い、補助費等は医療機関や事業者への協力金支給等により増加し、貸付金も商工制度融資が大幅に増加した。

- ③ 経常収支比率は依然として高水準で推移

経常収支比率は、補助費等などの支出は増加したものの、地方交付税などの収入が増加したことにより、前年度に比べ0.1ポイント減少の95.1%となったが、依然として高水準で推移している。